

絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2018-新春

No.86

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



白壁二条城 2004年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

公益財団法人

文化財保護・芸術研究助成財団

FOUNDATION FOR CULTURAL HERITAGE AND ART RESEARCH

新年あけましておめでとうございます。

本年は当財団の創立三〇周年にあたります。人類の創造した知的財産である貴重な文化財を守り、次の世代に伝える。こうした活動を通して東アジアの安定と発展に寄与、そして世界平和のために貢献しようではありませんか……。

財団創設者のひとりである平山郁夫先生のこの想いのもと、今日まで私たちは歩んできました。紆余曲折は多々ありましたが、財団の活動が三〇年の長きにわたり続けることが出来たことは、ひとえに個人、法人の皆さまの御理解、御支援があったればこそと感謝、御礼申し上げます。

三〇年という節目にあたり、お世話になった方々をお呼びし、祝賀会とか記念品の贈呈なども考えましたが、財団の厳しい財政事情も考慮し、従前の通り、粛粛と助成、支援の活動に力を注がせていただきます。

昨年末、天皇陛下の御退位が平成三十一年の四月と決まりました。時代は大きなうねりの中で転換期を迎えようとしています。好むと好まざるにかかわらず、これを支えているのは人工知能（AI）に代表される科学技術の力でしょう。

同じ話題で恐縮なのですが、前年の年頭の御挨拶の中で重力波の話にふれましたが、昨年、観測された重力波は二つの中性子星が合体した結果生じたようです。茶さじ一杯の重さが十億トンほど

の重さを持つ。これが中性子星の世界とか。宇宙物理学の話は、さておいて、日本画の世界でも重要な顔料である金や銀などはこうした重い天体同士の衝突などで生まれるようです。

壮大、華麗な大和絵と相対性理論の世界が結びつくとは、誠にこの世は摩訶不思議な気がいたしました。

恒例の日中韓文化交流フォーラムは昨年十一月一日から四日まで韓国に舞台を移し、本年二月に開かれる冬季オリンピック、パラリンピックの会場となる江陵市と江原道平昌で開かれました。フォーラムの詳細は本文でお読みいただきますが、「日中韓オリンピックと東アジアの文化交流」というテーマの中で、三カ国の次世代をになう若手有望画家が各国二名ずつ参加してオリンピックを画題とした作品を制作いたしました。作品は韓国に寄贈され、一般に公開されます。

フォーラムも第13回目を迎え、こうした形で次に伝わる実績が残されることは大変結構なことと思います。

ここで私自身に関することを記すことをお許しください。昨年、東京藝術大学の美術館において、クローン文化財の成果を中心とした展覧会「素心伝心」を開催いたしました。

一カ月余の期間中に四万人余の方々に御覧いただいたことは望外の喜びでした。クローン文化財の研究は、まだまだスタートしたばかりです。今後、この技術をどう進化、発展させるのが、大きな

課題です。もちろん、日本画家としての創作活動も私にとっては大切な仕事です。健康に留意して敢えて二兎を追う覚悟です。

そして、この三月は、私は定年により東京藝術大学を退任いたします。そうは申しましたが、私自身の個人環境が大きく変わるわけではありません。少しでも時間にゆとりが生まれましたら、それは財団の運営に傾注したいと思っています。

三〇年に及ぶ財団の歩みを振り返ってみますと、順風満帆の時は一時もありませんでした。文化・芸術を守り、これを次世代に伝えていく。なかなか難しい仕事です。しかし、行動を起こさなければ結果は生じません。

本年も私どもは創設時の理念に従い、理想にむけて歩んでまいります。そのためには時代の流れにうまく乗ることも肝要かと考えます。

ここ数年の傾向ですが、財団も財政面で苦戦を強いられております。私どもは、これを打破すべく、経費節約はもちろんのこと、支援者をふやすべく、不眠の努力を続けてまいります。私どもの仕事は地味な努力を必要とされています。しかし、その努力の積み重ねが、日本が目標としている世界に冠たる文化芸術立国の実現に少しでもお役に立てれば、と願う次第です。

皆さま、本年も私どもの意をお汲みとりのうえ、よろしく御指導、御鞭達賜りますようお願い申し上げます。

休むことなく理想にむけての歩を



理事長
宮廻 正明
(みやま せいめい)

ヴァレッタ市街

(マルタ共和国)



ユネスコ世界遺産（文化遺産）シリーズ

©UNESCO

地中海を制圧できる要衝の地にあるマルタ島は、歴史上軍事面で重要な場所であった。マルタ共和国の首都ヴァレッタは、一五三〇年にトルコ軍によってロードス島を追われたヨハネ騎士団が、一五六五年マルタ島北東部に港町として築いた城塞都市。この街には騎士団長の宮殿をはじめ騎士団宿舎、聖堂、大学など、当時の面影を伝える建造物が数多く残されている。

(一九八〇年に文化遺産として登録)

公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

東京藝術大学

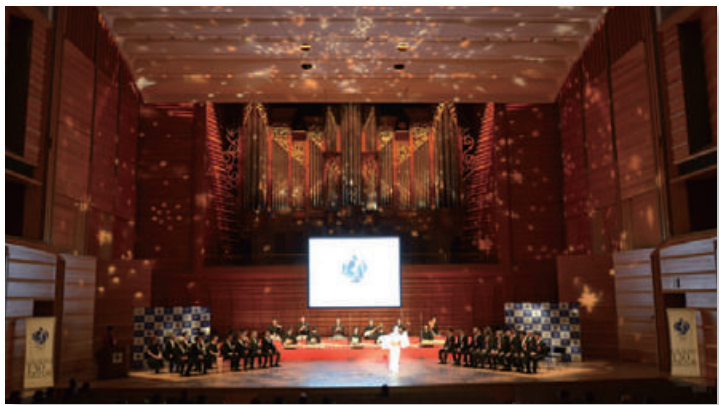
― 伝統と革新に歩む一三〇年 ―

新たなる出発の年

東京藝術大学は、平成二九年十月四日、創立一三〇周年を迎えました。

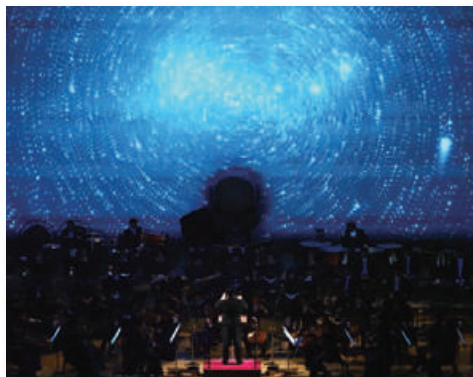
本学は、明治十二年（一八八〇）に音楽取調掛が、明治十八年に図画取調掛がそれぞれ文部省に置かれたことを起源とし、明治二〇年十月四日、東京音楽学校と東京美術学校の二校が設置され、ここに我が国の近代芸術教育の礎が築かれました。両校は、戦前における我が国の芸術家養成の中心的役割を担い、戦後の昭和二四年（一九四九）五月には、学制改革により両校が統合されて新制大学「東京藝術大学」となり、美術と音楽の二学部からなる、国立大学で唯一の芸術に関する教育研究を行う四年制大学として生まれ変わりました。その後、大学院修士課程及び博士課程、さらには映像研究科、国際芸術創造研究科などの独立研究科の設置を経て今日に至っています。

私は、今年度の入学式において、新入生に対し、孔子の「温故知新」にあやかり、「温故創新」の言葉を贈りました。これは「故きを温ねて新しきを創る、



東京藝術大学創立130周年記念式典（平成29年10月10日～東京藝術大学奏楽堂）。

もって藝大生たるべし」というもので、伝統をしつかり学び、専門分野での能力に磨きかけた上で、総合芸術大学に在籍するメリットを生かし、他分野との交流にもチャレンジして新しい創造に結びつけてもらいたいとの想いを込めたものです。



日本・チリ国交樹立120周年記念公演。熱演する藝大フィルハーモニア管弦楽団。

東京藝術大学ここにあり！

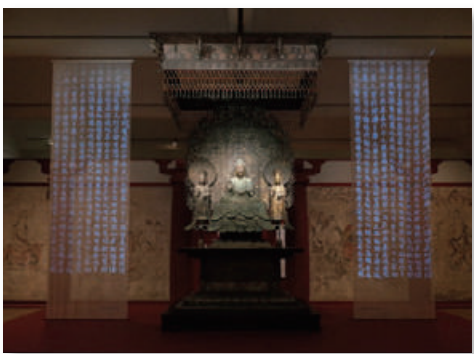
創立一三〇周年を契機とした具体的な取り組みの一つとして、「GEIDAI 130 ARTS」スペシャルプログラムと題し、平成二九年四月より約十カ月をかけて、様々な企画を展開して参りました。現在、第一線で活躍する卒業生をはじめ、在学生、現任教員、名誉教授等と幅広く本学関係者の参画を図ることで「東京藝大の力」、「アーツの力」を結集し、幅広い層の皆様に芸術に触れる機会をご提案し、国際的な視野をもつ

た芸術の発信拠点としての本学をアピールすると共に、その教育研究や人材育成にかける熱意を、世の多くの皆様にご披露して参りました。

国際交流プログラムとしては音楽学部が、日本・チリ国交樹立二二〇周年を記念し、総勢八〇名の藝大フィルハーモニア管弦楽団による「日本・チリ国交樹立二二〇周年記念公演」を開催し大きな反響をいただきました。

本学が培ってきた伝統芸術の継承および最新の技術革新の取り組みとしては、まず、「藝「大」コレクション パンドラの箱が開いた」にて、東京美術学校開設以来、積み重ねられてきた国宝・重要文化財を含む日本美術の名品、および美術教育のための参考品として集められた希少性の高い品々や、歴代の教員および学生たちが遺した本学のコレクションを一堂に集結し、藝大コレクションの奥深さをご堪能いただきました。

〈シルクロード特別企画展「素心伝心 クローン文化財 失われた刻の再生」〉では、文化財保存にかける本学の長年の継続した取り組みをご紹介します



シルクロード特別記念展「素心伝心 クローン文化財 失われた刻の再生」。会場入口に再現された法隆寺金堂の国宝・釈迦三尊像が設置された。

と共に、最新特許技術を駆使したクローン文化財として原寸大に復元した各国の壁画や、関連諸国の絵画や彫刻作品とあわせてご紹介することで、アフガニスタンのバミヤンからシルクロードを経て、その終着地である奈良法隆寺に至るまでの「壁画の道」や美術の変遷をご覧頂きました。

また、〈皇室の彩 百年前の文化プロジェクト〉では、献上品として宮内庁に現存する作品とともに、その制作にまつわる資料をご紹介いたしました。大正期に、東京美術学校第五代校長・正木直彦（一八六二―一九四〇）の指揮のもと、この時代の美の最高峰を目指した献上品の数々が制作されました。この特別展を通して、皇室が日本の文化を育み伝えてきたことを、日本美術の伝統継承にかける本学の意気込みと共に多くの皆様にお届け出来たのではないかと考えています。

十年前の創立一二〇周年行事として

何事にも情熱と意欲を持って……

大変ご好評をいただきました「藝大茶会」を、一三〇周年のこの度も開催いたしました。茶席は十年前と同様に、表千家・裏千家・武者小路千家・遠州茶道宗家の四流派による「家元席」と、京都および東京の美術倶楽部による「美術倶楽部席」、藝大茶道部による「藝大席」を設けましたが、「藝大席」においては、騎馬像やサモトラケのニケ像などの巨大な像が立ち並ぶ大石膏室をインスタレーションによる雲が覆い、「天上の茶席」をイメージした特別な空間が誕生しました。美術学部教員の総力を結集した「藝大茶会」では、今回、私も音楽学部出身の学長として、待合で学生たちとの共演による室内楽をお届けするというおもてなしがかないましたことも大きな喜びでした。

東京藝術大学が、更なる発展を遂げてゆくためには、何より後進の育成が不可欠です。これまでも、本学の取り組みにご賛同いただける皆様より、ご寄附を賜りましたが、この度、「東京藝術大学若手芸術家支援基金」の創設を目的とするチャリティオークションを開催いたしました。本基金は、本学学生や、若手芸術家を対象に、個展・グループ展の資金助成や海外留学費用などを支援するもので、豊かな感性と卓越した才能を持つ若者たち



式典の壇上で、宮田亮平文化庁長官より「東京藝大は日本を世界をリードする芸術の拠点となっただきたい」と激励の言葉を賜りました。そして、長官より「大切な物を想像し、願いを必ず達成し、歴史を創る」という意の文字（金文）をしたためた書をいただきました（行人偏は人、金は物、立刃は刀＝道具を表す）。

が一人の作家として花開く一助となることを期待しています。現役の教員、名誉教授、卒業生や修了生など、同基金の趣旨への賛同者は一一〇名に及び、東京美術倶楽部の協力のもと寄贈作品の販売が行われ、その収益金は今後、同基金の活動資金として活用される予定です。

「GEIDAI 130 ARTS」スペシャルプログラムの他に、一三〇周年記念事業として根幹を成すプロジェクトの一つとして、「五大陸アーツ・サミット」を、平成三十年一月八日（月・祝日）～九日（火）に開催いたしました。二〇二〇年に開催のオリンピック・パラリンピック東京大会に向けた、文化芸術教育機関における戦略的グローバルネットワークの基盤整備を目指し、七カ国八大学の学長・学部長をお招きし、これからの新しい芸術大学の姿と文化交流について、世界的視野での活発な意見交換がなされたことを嬉しく思っています。



東京藝術大学創立130周年記念事業協賛であるオフィシャルパートナーの（株）NKB取締役会長・創業者の滝久雄氏と。

これら多くの企画の実現に際しましては、「東京藝術大学一三〇周年記念オフィシャルパートナー」といたしまして、本学の教育理念にご理解を賜りました多数の企業および団体の皆様よりご支援とご協力をいただいております。国立大学を取り巻く現状といたしましては、平成十六年四月の国立大学法人化以降、国内外の政治経済状況の急速な変化やグローバル化の進展も相俟って、大学運営および経営の自助努力が社会から求められる時代となりました。世界でも稀な総合芸術大学として、優れたアーティストを継続的に育成すると共に、積極的に教育研究活動を社会に発信し、芸術系大学の役割や在り方について改革を推進している本学の姿勢を、今後も皆様に評価いただけますよう、また、将来にわたり、本学が日本および世界を文化芸術でリードする存在となるべく、教職員と学生が一体となり邁進して参ります。

※ ※ ※

皆さま方の日頃の御厚情に心より御礼申し上げますと共に、今後とも御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



©Fumihito Nagai

東京藝術大学
学長
澤和樹
（さわ・かずき）

芸術系大学に人材あり

科学技術の進歩・発展は社会の価値観を変えてゆく。そうした中、多くの分野で優れた人材が求められている。今、その中でも芸術系大学生に熱い視線が注がれている。そのわけは……

価値観の変遷の中で

私は東京藝術大学の経営協議会に委員としてかかわっていることもあり、時折、イベントなどで大学を訪れます。

キャンパスを歩いていると、絵の具で汚れたツナギ服の学生が、仲間に手伝ってもらって大きな立て看板のような絵をワイワイ賑やかに運んでいるのを見ます。バイオリンのケースを大事そうに小脇に抱えて、小径を歩く学生にも出会います。

それぞれに自分の求めているところを目指して歩んでいるこの若者たちの中から、十数年後には世界に名だたるアーティストが生まれるだろう。そう想像すると楽しくなりますし、改めてここは人材の宝庫だと思います。

近年、芸術系大学に企業から求人の引き合いが増えています。それもアートやデザインとは関係ないふうの企業からです。

なぜなのか。聞きますと、芸術系大学の学生の斬新な視点やものの考え方を企業の中に取り入れていきたいというのです。その感性や美的感覚や直観が、モノづくりやサービス

や組織運営にいま必要になっている、と。ここにはこれまでのやり方ではもうやっていけなくなっている現実があります。

戦後、政治、経済中心の時代が長らく続きました。それが九〇年代ごろから文化の重要性が指摘されるようになりました。政治、経済は、理論や分析や理屈が重視される世界です。これに対して文化は感性、美的感覚、直観が物差しとなる世界です。政治、経済の重要性が減じたわけではありませんが、相対的

に文化の比重が高まり、この傾向は年と共に強まっています。

文化の時代の深まりと呼応する形で、日本では少子高齢化や労働人口の減少が進行し、国内総生産（GDP）の規模を追うより内面の充実を大切に、モノ中心からコト中心の暮らしに関心が移ってきています。今までのやり方が通用しなくなっているのは当然と言えるでしょう。

芸術系大学の学生の感性や美的感覚や直観が大事



株式会社NKB
取締役会長・創業者
（公財）日本交通文化協会
理事長
滝久雄
（たき・ひさお）



国際瀧富士美術賞の懇親会で受賞者たちと談笑する滝理事長（左）。



国際瀧富士美術賞の内外受賞者の交流を兼ねたワークショップ。



東京藝術大学の社会人講座の実践演習。

にされるようになったら、日本社会そのもののインパクトは大きなものがあると思います。縦割りの、専門領域で区切られたタコソボ的な社会に、横串を刺し、新しい角度から社会を見直す契機を提供すると私は見えています。

芸術系大学生に見る逞しさ

もう一つ、私が注目するのは、芸術系大学の学生の逞しさ、どんな状況にもめげない資質です。これは学生を教えている先生方にもある程度同意しているだけではないでしょうか。彼ら、彼女らの逞しさはどこから来るのかと思うのですが、最近、その答えが見つかった気がしました。

昨年十一月、私が理事長を務める公益財団法人・日本交通文化協会が主催する国際瀧富士美術賞の授賞式が持たれました。第三十八回となるこの授賞式に、第一回（一九八〇年）受賞者で、彫刻家の青木野枝さんを来賓の一人としてお招きしました。日本と外国の受賞者にエールを送っていただきたいと思ったからです。

その励ましのスピーチで、私が印象深く聞いた言葉があります。「彫刻家とか美術家というのは職業ではなくて生き方の一つです。制作するということは世界に自分の居場所を作っていく作業なのです」と青木さんが語ったのです。

なるほど。芸術系大学の学生は、入学した時点で生き方を自ら選択している。そして作品を制作していくことは、自分の存在空間を広げていくことである、と。

恐らく多くの学生は、誰かに強制されてアーティストの道を選んだとか、やりたいことが見つからないからとりあえず芸術系大学を選んだ、というものではないでしょう。好きだから志した訳で、生き方を選択した以上、それに自らを賭す覚悟がある程度出来ているのではないのでしょうか。

芸術系大学生が持つ安定感

もちろん例外があることは百も承知ですし、皆が皆、そうであるとは言いません。ただ自分の好きなことであれば、時間も忘れて没頭するのは昔も今も変わりません。「近頃の若者は我慢強さが足りない」

「耐性がない」と言われますが、芸術系大学の学生を見ると、そう一律に括（くく）れれないと言いたいのです。もう一つ、私がいいなと思うのは、学生たちが手でものを考える習性をもっていることです。手を使って思考すると言ってもいいでしょう。音楽系にせよ、美術系にせよ、手を使って音やモノを造り出します。机上の空理空論ではなく、手を使い、身体で感じ取ったことをもとに考える。

インターネットと人工知能（AI）によって、仮想現実の世界が拡大しています。浮遊感、捉えどころのなさ、虚実の境の曖昧さが生活の中に入り込んできています。そんな時代にあって、手触り感や身体的感覚や自分の手でモノを造っている実感を持つことはとても大切です。

実存的実感を日々の制作や練習を通して手応えとして感じながら、思考し、また制作と練習に励む。これは原始時代以来、道具を使う人間本来のありようです。どんな環境にも耐え抜いている芸術系大学の学生の逞しさの理由は、ここにもあるのではないのでしょうか。こうした若者は仮想現実と現実の境を見誤ることはないでしょうし、大地に足を着けた安定感を持っています。

改めて言いますが、芸術系大学は人材の宝庫です。こうした若者がこれからの日本社会を変えていってほしい。心から願っておりますし、期待しています。

筆者略歴

一九四〇年東京生まれ。一九六三年東京工業大学工学部機械工学科卒業。現在（株）NKB会長、（株）くるなび会長CEO、公益財団法人・日本交通文化協会理事長。東京藝術大学経営協議会委員、お茶の水女子大学学長特別顧問。



国際瀧富士美術賞の内外の受賞者の方々（クレーン熱海ゆがわら工房の敷地の一角で）。

リードに導かれて半世紀——私のクラリネット人生

クラリネットの音源は葦で作られたリード（簧）。クラシック音楽においてもポピュラー音楽においても重要な役割をもつこの楽器の魅力を語る。

少し恥ずかしい動機

僕がそもそも、なぜクラリネットを始めたかと言うと、それはクラリネットが手に入ったから。クラリネットを手に入れたのは小学校六年の秋。父は藝大でトロンボーンと*ソルフェージュを教えていた。母は藝大を出て上野学園でピアノを教えていた。兄はホルンで藝高を受ける用意をしていたと思う。小さい時からピアノと聴音はしていた。何となく音楽をやっているかと思っていたが、なんの楽器をするかは特に考えていなかった。小学校六年の秋にフランスの吹奏楽団、ギャルドレピュブリケーヌ吹奏楽団の来日公演がありフランスからクランボン（有名なクラリネットの会社）の楽器を選定して持ってきて貰えると言われ、父、兄が金管楽器をやっていたので、それなら木管楽器のクラリネットなら良いだろうと思い始めた。



パリ・ギャルドレピュブリケーヌ吹奏楽団の方と両親と共に（小学校6年生）。この時に最初のクラリネットを持ってきた。

クラリネットを始めた動機は人に言うには恥ずかしいような動機だった。最初の先生は藝大クラリネットの学生の方で、家にまで教えに来てくださっていた。でも、そのような動機で始めたからか、あま

留学への道



1964年3月、演奏中の筆者（14歳）。

四年生の時、第四十一回毎日音楽コンクール「日本音楽コンクール」で第一位を頂くも、仕事がないため留学を考え始める。アメリカのオーケストラが好きで、家にあったバーンスタイン指揮、ニューヨーク・フィルハーモニック、ジョージ・セル指揮のクリープランド・オーケストラのレコードを良く聞いていた。クリープランド・オーケストラのクラリネット奏者ロバート・マルセラスの演奏、音が好きでアメリカに留学とも考えたが、当時は一ドル三六〇円の時代に、村井祐児先生にドイツ、デトモルトのミヒャエルス先生を紹介され、卒業した年の秋に入学試験を受けに行き、合格。入学する事ができた。ドイツの音楽大学は留学生であっても学費はかからず、贅沢にも最初から車に乗っていた。当時デトモルトの北西ドイツ音楽アカデミーには二〇人位の日本人留学生がいたと思う。最初の頃はドイツ語があまり喋れな



東京藝術大学音楽学部教授
演奏芸術センター長
山本 正治
(やまもと まさはる)

いので他の日本人留学生とよく一緒にいるようになり、あまりドイツ語を覚えないので離れて住む方が良くアドバイスをもらい、車を買って少し郊外に住むことにしたのだ。

ブラームスはお好き

ミヒャエルス先生のレッスンは楽章のある協奏曲、ソナタ等なら二週間に一曲、一回目のレッスンで一章、二回目のレッスンで二三楽章。楽章のない曲は一回のレッスンで終わり。

もう一人、先生がいらして音階、**エチュードレッスンを担当してくださっていた。週に二回レッスン。ミヒャエルス先生のレッスンは、先生が伴奏を全部してくれていた。まずはピアノと合わせ、それからクラリネットのレッスン。今考えても良く練習したと思う。ミヒャエルス先生はクラリネット奏者と言うよりも、音楽家。僕にとって最高の先生との巡り会いだ。先生はロマン派時代の音楽が好きで、僕も一緒に毎日コンクールの受賞者のインタビューでも好きな作曲家を聞かれ、ブラームスと答えていたほどだ。

ミヒャエルス先生にロマン派の作曲家のレッスンを受け、ただブラームスが好きと言っていた時よりも、今はロマン派が理解できるような気がしている。真面目に練習しレッスンに行っていたおかげか、先生に気に入られたようで、留学してから一年半位した時、先生にデュッセルドルフのオーケストラのソロ・クラリネットの常トラ（メンバーではないが、メンバーと同じ仕事をやるエキストラ）に行かないかと誘われた。そのオーケストラがどのようなオーケストラか判らなかったが、とにかく、行きますと答えていた。

ヨーロッパでの修業時代

オーケストラのクラリネットセクション全員を前にしたオーディションがあり、無事に通過。こうしてデュッセルドルフ交響楽団で仕事をするようになった。常トラを始めてから半年後位にあったオーディション、最後にドイツ人と二人残り争ったが運良く残ることができた。クラリネットはドイツ式と言われるシステムの楽器とボエム式と言われるシステムがあり、当然、ドイツではドイツ式が使われている。ボエム式のクラリネットでは入る奏者はほとんどいなく、当時ドイツの中ではボエム式のクラリネットが入ったと少し話題になった。

このオーケストラはライン・ドイツ・オペラ劇場でオペラを演奏している。オーケストラの定期演奏会は年十回、夏休みは二ヵ月程度、あとは毎日オペラを演奏している。オーケストラの規模も大きくクラリネットは六人だった。ソロ・クラリネットが僕ともう一人、三管編成のオーケストラが二個できる位のオーケストラの規模だ。新演出でやるオペラが年に十作品、あとの四〇作品は練習なし。ベートーヴェンのオペラ「フィデリオ」、ドヴォルザークの「ルザルカ」なども練習なしでぶっつけ本番。



第41回（1972年）日本音楽コンクール受賞者たちと演奏会の記念写真（沖縄にて）。左よりピアノ伴奏の小野悦子（現・岡崎）、ピアノ部門第1位・海老彰子、ヴァイオリン部門第1位・栗山智子、クラリネット部門第1位・筆者、声楽部門第1位・岸本力の各氏。



ミヒャエルス先生のレッスン（ドイツ デトモルト音大にて）。

ター、リカルド・モラレス等、素晴らしいクラリネット奏者と演奏することが出来た。

十年前に藝大に常勤として来るようになり、ここ六年ほどは藝大ウインドオーケストラの指揮もするようになった。藝大にはここ五年、毎年ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の首席クラリネット奏者、ヴェンツェル・フックス氏が来てくれ、レッスン、演奏をしてくれている。二度、一緒にクロンマーの二本のクラリネットの為の協奏曲を演奏できたことは幸せだった。

クラリネットを始めてからは半世紀。振り返って見ると、クラリネットを始めた動機、留学しミヒャエルス先生に習えたこと、ミヒャエルス先生の勧めによりドイツのオーケストラに入れたこと、武蔵野音楽大学で教えるようになったこと、日本のオーケストラに入れたこと、サイトウ・キネン・オーケストラに呼んで貰えるようになったきっかけ、木曾音楽祭で音楽監督ディレクターになれたこと、藝大で教えるようになったこと、全てが僕のクラリネット人生にとって大切なことであつたと思う。また全てが人の助けによって始まった。両親の影響、援助は大きかったと思う。

いま思い返すと、自分で大きな決断をして来なかったような気がする。大事な時にいい人に巡り合えたのがクラリネットを続けて来られた理由だと思う。音楽という、心にとって大事なことを、クラリネットを学び演奏する事によって、自分自身が影響受け、聞いている人に少しでも影響を与えられたとしたら、僕のクラリネット人生は幸せだったと言えるのではないだろうか。

筆者略歴

一九五〇年東京生まれ。一九七二年第四十一回毎日音楽コンクール（日本音楽コンクール）管楽器部門第一位入賞。七三年東京藝術大学安宅賞を受賞して卒業。北西ドイツ音楽アカデミーで、ヨストミヒャエルスに師事。七五年にデュッセルドルフ交響楽団のソロ・クラリネット奏者に就任。フランス・コルマール国際室内楽コンクール管楽器トリオ部門第二位。八三年帰国。現在、木曾音楽祭ディレクター、日本クラリネット協会会長。

*ソルフェージュ：旋律をドレミ音法などで歌う読譜唱法。 **エチュード：主として楽器の練習のために作った楽曲。練習曲。



日中韓文化交流フォーラム報告

日本海を望む韓国のリゾート地・江陵市でオリンピックを
開催した経験を持つ三カ国がオリンピックをテーマに熱く討論！

財団専務理事
小宮 浩 (こみや ひろし)



江陵の海。

冬季オリンピック開催の地で

第13回日中韓文化交流フォーラムは、昨年十一月一日から四日までの日程で、第23回冬季オリンピック、第12回冬季パラリンピック開催の地のひとつである韓国の江陵市で開かれました。

今回のテーマは、「日中韓オリンピックと東アジアの文化芸術交流」です。宿舎でもあり、フォーラムの会場でもある。「江陵シーマークホテル」は、日本海に面した瀟洒なホテルです。

十一月一日、朝、羽田空港を立ち、金浦空港に昼に到着。それ



「わたしは未来」を熱唱する「江陵青少年少女合唱団」の皆さん。



韓国の伝統舞踊「太平盛大」を舞う「江陵青少年舞踊団」の皆さん。

今回のフォーラムは、ホスト国である韓国は鄭求宗委員長以下十名、中国は中国人民対外友好協会秘書長の李希奎委員長以下九名、日本は当財団の宮廻正明理事長以下七名、これが参加国の代表団の構成です。

私どもの代表団に東京藝術大



「タイスの瞑想曲」を演奏する澤和樹学長。

何が話し合われたか

十一月二日、午前九時より、フォーラム開始。韓国・鄭委員長、中国・李委員長、日本・宮廻委員長の順で挨拶。三カ国共、すでにオリンピックを開催した経験を持つているためか、発言にある種のゆとりがあり、本年の平昌(冬季)、二〇二〇年の東京(夏季)、二〇二二年の北京(冬季)における成功を祈りたいとエールの交換。

アジアで今後二年ごとに開かれるオリ

ンピック。その舞台となる三カ国は、互いに叡知を結集し、アジア・太平洋地域のリーダー国として協力、世界平和に貢献しようではありませんか、と認識が一致。

各委員長とも、このフォーラムが中断することなく続いていることを高く評価。また、中国の李委員長が「わたしは未来」を三カ国の美しい未来の発展を象徴する良い歌だと評されたのが印象的でありました。

このあと専門家の先生方の講演へ移りました。

韓国の前・梨花女子大学学長で、文化



今回のフォーラムに参加された日・中・韓の代表団の方々。



江陵市副市長・金喆来氏(左端)より平昌冬季オリンピック、パラリンピックのマスコットのぬいぐるみが三カ国の委員長に贈られる。左より李希奎(中国)、鄭求宗(韓国)、宮廻正明(日本)の各氏。



講演する韓国・李培鎔氏(左)と中国・王昕氏(右)。

財庁世界遺産文科委員長である李培鎔氏は歴史学者としての立場から同国のユネスコ世界遺産を解説。その後、平昌冬季オリンピックには、文化オリンピックの意味を持たせたいこと、そこに朝鮮半島の平和統一の願いを世界に呈示したいと熱弁をふるわれました。最後に文化は国家の品格と信頼を表わす、と述べられてしめくられました。

次に登壇されたのは中国の王昕氏。王氏は北京冬季オリンピック組織委員会総括企画部総合処副処長。同氏の講演は北京冬季オリンピックの概要の説明に終始しました。映像資料を巧みに使い、中国が大会運営にあたっては、いかに環境の保全を重視しているかを強調。北京大会は環境にやさしいクリーンなものにした

い、そして世界の多くの国から多くの選手が参加してほしいと、抱負を述べられました。

宮廻理事長の講演

宮廻理事長は文化は「物」ではなく「心」であると説かれ、東京藝術大学における文化の取り組み方を紹介。また、日本の文化の基礎となったのは中国、韓半島を通じて伝えられた大陸の文化であること、それを模倣から独自の文化へ発展させていった日本文化の発展の経緯を解説され、改めて韓国の祖先の方々へ謝意を表しました。

このあと理事長は文化財の保存に関する自論を展開、そしてクローン文化財のもつ意味と発展性について展望を述べて終了。

若手芸術家の饗宴

今回のフォーラムにおけるサイドイベントは、絵画制作のワークショップ。各国二名の若手の画家が五〇号サイズでオリンピックをテーマにした作品を描いてほしい、そしてその仕上げをフォーラムの会場で行う。これが事務局からの要請でした。

作品の評

細は次ページを御覧ください。日本は宮廻理事長のお弟子さんにある東京藝術大学の社会連携センターの特征



3カ国の若手有望画家の作品を講評する宮廻委員長。

助手を勤める日本画家の鷹濱春奈さんと松原亜美さんが参加。協力してくださいました。

フォーラム終了後の午後、一時間ほどで仕上げを終えて宮廻理事長が講評を担当されました。三カ国の六作品は平昌オリンピック組織委員会に寄贈され、オリンピックの期間中に公開展示されます。フォーラムの成果がこうした形で末永く韓国の地に残ることは大変結構なことと感じた次第です。

平昌へ

十一月三日はオリンピック施設の視察。まず、訪れたのはホテルからさほど遠くない地にある江陵オリンピック広報体験館。ここではVRなど最新のIT技術を駆使した様々な冬季スポーツ種目を体験。また、聖火を運ぶトーチが意外と重かったのが印象的でした。

平昌オリンピックの氷上競技は江陵で行われます。一部、工事は続けられていましたが、アイスアリーナ、スピードスケート競技場、ホッケーセンターを見学。引き続き雪上競技の行われる平昌へ。



スキー・ジャンプ競技場(平昌にて)。

(写真:丸山純一)

日中韓3カ国若手画家と作品紹介

日中韓文化交流フォーラムの韓国側事務局からの要請は、50号サイズでオリンピックへの想いを託したものをテーマに描いてほしいというものでした。

松原亜美 東京藝術大学社会連携センター特任助手。日本画家。一九八七年生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学保存修復研究領域（日本画）博士後期課程修了。作品は工事中の国立競技場を描いたもので、クレーンはオリンピックの五輪の色を表している。東京オリンピックへの三カ国の想いを込めている。

鷹濱春奈 東京藝術大学社会連携センター特任助手。日本画家。一九八八年生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学保存修復研究領域（日本画）博士後期課程修了。作品は「勝利」と「平和」を象徴したもので、ゴールに待つものは栄冠のオリープ。



松原亜美
「Projection」

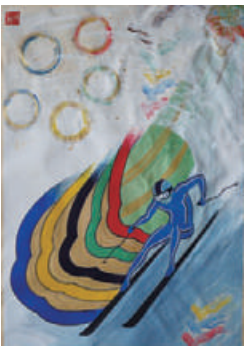
鷹濱春奈
「Spur」



日本



金正勲「五輪と相生」



韓国

李採吾 東国大学大学院仏教美術学科修士課程修了。現在、同大学仏教美術文化財造形研究所研究員。韓国画家。一九八三年生まれ。古典研究の成果として韓国の伝統的な造り棚に雪上、氷上競技の用具を配置して冬季オリンピックを表現している。

金正勲 東国大学大学院仏教美術学科修士課程修了。現在、同大学仏教美術文化財造形研究所研究員。韓国画家。一九八五年生まれ。オリンピックの五輪の色にスキーヤーを組み合わせて、時の流れを表現している。

張怀月
「オリンピックの輝き」



中国



曾軍藝
「曇彩化境之九日山居図」

張怀月 清華大学美術学院の芸術スタジオで研修。現在、中国人民大学芸術学院高級研究班の指導教授。中国美術家協会会員。中国画家。本名は張秀媚。一九七〇年生まれ。女流画家らしくやさしく描かれている三人の子供は三カ国を象徴。吉祥を表す赤を使い、同方向へ進む子供の表情にオリンピックへの期待を込めている。背景はソウルの街並み。

曾軍藝 福建師範大学美術学院卒業。福建松風画院院長、首都師範大学客座教授等を経て、現在、中国水墨画学会副会長兼秘書長。中国美術家協会会員。中国画家。一九七一年生まれ。九日山は福建省泉州市にある山。東峰、西峰、北峰の三峰から成る。標高はさほど高くない。古来、多くの詩人がこの地を愛し、隠棲した。そのため、九日山を詠んだ詩が多く残されている。唐・宋以来、泉州は著名な海外貿易港であり、海のシルクロードの起点とも見なされている。

事務局報告

平成二十九年年度助成事業の採択状況について
平成二十九年年度助成事業の申請、採択状況について次のとおり報告します。

■文化財保存修復助成事業
二十七都府県の教育委員会から推薦があり、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

	申請数	採択数	決定金額
美術工芸	二十	一二	四百二十万円
建造物	三十五	一一	四百五十万円
有形民俗	四	一	五十万円
その他	二	一	二十万円
計	六十一	二十五	九百四十万円



修理された「釈迦涅槃図」
(埼玉県深谷市)



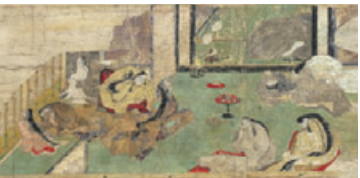
修復された「医王寺薬師堂」
(静岡県島田市)

■芸術研究等助成事業
研究者からの申請に基づき、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

申請数	採択数	決定金額
二十五	十二	三百四十九万円

■国際協力事業
研究者からの申請に基づき、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

申請数	採択数	決定金額
一一	六	三百七十万円



国宝伴大納言絵巻現狀模写研究
完成模写 (下巻6 (部分))

■重点助成事業
(1) 東日本大震災被災文化財復旧支援事業
五県の教育委員会から推薦があり、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

	申請数	採択数	決定金額
建造物	十五	一五	二千九百万円
無形	三	三	二百万円
記念物他	四	〇	〇万円
計	二十二	十八	三千百万円



修復された国登録有形文化財
「角屋店舗 (酒造店舗)」
(宮城県気仙沼内湾地区 (風待ち地区))

(2) 尼門跡寺院文化財保存修復助成事業
本事業は、平成十二年度から企業等のご支援を受けて毎年一件の助成を実施しているものです。平成二十二年からは東芝プラントシステム株式会社様のご支援・ご協力を得て実施しており、今年度は次のとおり助成を予定しています。

○真如寺蔵「木造仙寿院宮(理昌尼)座像」
平成28年度助成
真如寺「月鏡軒宮御像」(修理中)



平成28年度助成
真如寺「月鏡軒宮御像」
(修理中)

(3) 松尾大社本殿等保存修復支援事業
松尾大社は、千三百年を超える歴史を有する日本の古社です。本事業は「松尾大社平成の御遷宮奉賛会」の呼びかけによるご支援を受け、本殿等歴史的建造物の保存修復事業を平成二十八年度から三年に渡り実施しています。

今年度は、「神庫御屋根檜皮葺替」他二件五千二百万円の助成を決定しました。

賛助会員ご入会とご寄付を頂きました皆様

●平成二十九年九月二十六日から十二月二十日まで
敬称略 順不同

☆賛助会員
○個人(正)会員 (氏名/住所)

☆寄付金
○文化財保存修復・芸術研究等助成事業に対する寄付
ヤフーネット募金(200名様)
文化財保存修復支援カレンダー募金
東日本遊技機商業協同組合
(公財)日本交通文化協会

京滋地区私立芸術系大学進路研究会

○松尾大社本殿等修復支援事業に対する寄付
平成の御遷宮奉賛会(15件)
○東日本大震災被災文化財救済・復旧支援事業に対する寄付
平家琵琶普及会

○熊本地震被災文化財救済・修復支援事業に対する寄付

NPO法人旧五十嵐邸を考える会
東邦高等学校 美術科3年O組
東邦高等学校 美術科1年O組
東邦高等学校 アニメ研究部
国府台女子学院 美術デザインコース

お願い

◎熊本地震被災文化財の救済と復旧のための募金をお願い
平成二十八年四月に熊本県を中心に発生した熊本地震により被災した文化財の保全に向けて、募金活動を行っております。いただきました浄財は、熊本地震被災文化財レスキュー事業等、被災地域の文化財の救済のために活用(平成二十八年度助成実施)させていただきます。文化庁・熊本県と協議の上、被災文化財の修復・保存のために活用させていただきます。皆様の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。
募金のお振込み手続きは左記の銀行振込又は郵便振替によりお願い申し上げます。
*

銀行振込 ①銀行名 ②口座番号 ③名義 ① 三井住友銀行 上野支店 ② 普通 8399622 ③ (公財)文化財保護・芸術研究助成財団 ※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、領収書、お礼状の発行等の必要上、財団事務局に事前にご連絡をいただけると幸いです。 (電話：〇三・五六八五・二三一一) 郵便振替 ①振替番号 ②加入者名 ① 00160・5・12319 ② (公財)文化財保護・芸術研究助成財団 ※通信欄に「熊本地震」とお書きください。 ◎賛助会員ご入会及びご寄付(前記のご寄付を除く)のお願い 〔賛助会員〕 当財団では、財団の活動趣旨にご理解、ご賛同をいただき、恒常的にご支援いただける法人、個人の賛助会員を募集しています。 法人正会員 年額(1口) 50万円 個人正会員 年額(1口) 1万円 維持会員 年額(1口) 10万円 〔ご寄付〕 賛助会員の他に、ご寄付も随時受け付けています。ご寄付には次の様々な方法があります。 ①銀行振込又は郵便振替 銀行又は郵便局から、振込によるご寄付を受け付けています。 〔銀行振込〕 〇三井住友銀行 上野支店 普通 6615500 〇みずほ銀行 上野支店 普通 4478576 〇三菱東京UFJ銀行 上野中央支店 普通 0796384 〔郵便局から振込み〕 〇郵便振替 00160・5・12319 ※口座名義は、銀行、郵便局からいずれも(公財)文化財保護・芸術研究助成財団 (2)インターネットによるご寄付 次の手順によりインターネットから、ポイント又はクレジットカードによるご寄付	として使用していた建物で、「幕守」「大隈重信侯像」「仔猫の群」「時の流れ」など、朝倉文夫の彫塑作品を展示しています。 詳細は直接施設にお問合せください。 ☆台東区立書道博物館 (〇三・三八七二・二六四五) 洋画家であり書家でもあった中村不折により昭和11年に開館された博物館で、不折が収集した中国及び日本の書道に関する古美術品、考古出土品などを展示しています。 詳細は直接施設にお問合せください。 ☆横山大観記念館 (〇三・三八二一・一〇一七) 上野池之端不忍池のほとりにある横山大観旧宅は、木造二階建ての数奇屋風日本家屋です。一九〇九年に、大観自身のデザインにより建てられ、自宅兼画室として使用しました。(旧宅と庭園が、国の史跡及び名勝になりました) 詳細は直接施設にお問合せください。 〔演奏会〕 ☆東京藝術大学奏楽堂 (〇三・五五二五・二三三〇) ①藝大定期室内楽第44回 第1日(千五百円) 二月三日(土) 十四時 ②藝大定期室内楽第44回 第2日(千五百円) 二月四日(日) 十四時 ③東京藝大チェンバロオーケストラ第30回定期演奏会(千五百円) 二月十二日(日) 十五時 ④モーニングコンサート12(千円) 二月十五日(木) 十一時 ⑤ルドガー・ローマン オルガン・リサイタル(二千円) 問合せ：オルガン科研究室 〇五〇・五五二五・二三三三 二月十七日(土) 十五時 ⑥オルガン科博士リサイタル(無料) 二月二十日(火) 十五時 ⑦モーニングコンサート13(千円) 二月二十二日(木) 十一時 ⑧川上洋司退任記念演奏会(無料) 往復はハガキによる事前申込制(問合せ：音楽科研
--	---

(募金)を受け付けています。 ←〇「YAHOO! JAPAN ネット募金」 ←〇「文化・スポーツ」 ←〇「文化財保存修復支援募金」 ←〇「Tポイント」又は「クレジットカード」を選択 ←〇募 金 ③特定寄付信託 当財団は、みずほ信託銀行と特定寄付信託に関する契約を締結しています。寄付信託に関する詳細につきましては左記にお問い合わせください。 〇みずほ信託銀行個人営業推進部 電話：03・3274・9203 ④遺贈 「遺贈」による寄付・相続財産の寄付を承っております。 「遺贈」とは、遺言により、ご自分の財産を特定の人や団体に分け与えることをいいます。受取人として、法定相続ではなく遺言書により、一部またはすべての財産の受取人として、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団をご指定いただくことができます。財団に寄付をされた場合、相続税の控除を受けることができます。 遺贈をご検討いただく際は、お電話かメールにて当財団までご相談ください。 ⑤商品券・図書券等による寄付 ご家庭のタンスや事務室の机等の中で眠っている、未使用の商品券、図書券、切手、収入印紙、ビール券、お米券、旅行券、QUOカード、テレホンカード、書き損じ葉書等もご寄付として受け入れております。 お送りいただく場合は、当財団事務局宛にて封書にてご郵送下さい。 ***** ●税法上の優遇措置 当財団は、「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、寄付金には税法上の優遇措置が適用され、所得税、法人税等の控除が受けられます。詳しくは当財団ホームページでご確認いただくか事務局までお問い合わせください。	究室〇五〇・五五二五・二三二七) 三月十七日(土) 十五時 ⑨深海(吉川)さとみ退任記念演奏会(無料) 往復はハガキによる事前申込制(問合せ：邦楽科研究室〇五〇・五五二五・二三四六) 三月十八日(日) 十五時 ⑩山本正治退任記念演奏会(無料) 往復はハガキによる事前申込制(問合せ：管打楽器科研究室〇五〇・五五二五・二三三九) 三月二十一日(水) 十四時 ⑪藝大21第12回奏楽堂企画学内公募演奏会(無料) 三月三十日(金) 十九時 ☆東京文化会館(〇三・三八二八・二一一) ①ハンブルク・バレエ団「椿姫」 二月二日(金) 十八時三十分 二月三日(土) 十四時 二月四日(日) 十四時 問合せ：NBSチケットセンター 〇三・三七九一・八八八八 ②ハンブルク・バレエ団 ガラ公演(ジョン・ノイマイヤーの世界) 二月七日(水) 一九時 問合せ：NBSチケットセンター 〇三・三七九一・八八八八 ③ハンブルク・バレエ団「ジジンスキー」 二月十日(土) 十四時 二月十一日(日) 十四時 二月十二日(月) 十四時 問合せ：NBSチケットセンター 〇三・三七九一・八八八八 ④東京二期会オペラ劇場「ローエングリン」 二月二十一日(水) 十八時 二月二十二日(木) 十四時 二月二十四日(土) 十四時 二月二十五日(日) 十四時 問合せ：二期会チケットセンター 〇三・三七九六・一八三一 ☆上野学園 石橋メモリアルホール (〇三・三八四三・三〇四三) ①ランチタイムコンサートvoic・84 「演奏家コース学生による演奏会」(無料) 二月七日(水) 十二時十分
--	--

お知らせのご案内 (1)平成三十年度助成金の申請に関するお知らせ 平成三十年度助成事業にかかる助成金申請については、左記のとおり受け付けを行っています。詳細は、当財団ホームページ(助成金のご案内欄)でご確認ください。 ①例年実施の文化財保護、芸術研究に係る助成事業 ②東日本大震災被災文化財復旧支援事業 【最終年度】 (申請期間) 平成三十年一月十日～二月末日(必着) ※熊本地震被災文化財救援・修復支援事業に関しては、詳細が決まりしだいお知らせします。 (2)文化財保存修復支援カレンダープレゼントのお知らせ 当財団広報誌(秋号No.82)でプレゼントのお知らせをしました2018年版の文化財保存修復支援カレンダーについて、十二月十三日に応募者全員に発送しました。 (3)展覧会・演奏会等のご案内 上野の山の文化施設で開催される展覧会や演奏会等様々な催し物の一部をご紹介しますので、ご利用のご参考にしてください。なお、ここに掲げた以外の催し物等詳細はそれぞれの主催者等にご確認ください。 〔展覧会等〕 ☆東京国立博物館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ①特別展「仁和寺と御室派のみほとけ―天平と真言密教の名宝」 一月十六日(火)～三月十一日(日) ②特別展「アラビアの道―サウジアラビア王国の至宝」 一月二三日(火)～三月十八日(日) ☆国立科学博物館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ①特別展「古代アナンデス文明展」 平成二十九年十月二十一日(土)～二月十八日(日)	国立西洋美術館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ☆東京藝術大学 大学美術館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ①「第66回 東京藝術大学卒業・修了作品展」 一月二十八日(日)～二月三日(土) ☆国立国会図書館 国際子ども図書館 (〇三・三八二七・二〇五三) ☆黒田記念館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ①【黒田記念室】原則毎週火・日曜日 ☆東京都美術館 (〇三・三八八二・六九二二) ①特別展「ブリュッゲル展―画家一族150年の系譜―」 一月二十三日(火)～四月一日(日) ☆上野の森美術館 (〇三・三八三三・四一九二) ①企画展「生頼範義展」 一月六日(土)～二月四日(日) ☆都立旧岩崎邸庭園 (〇三・三八二二・八三四〇) 岩崎彌太郎の長男で三菱第3代社長の久彌の本邸として造られ、園内の歴史的建造物は国の重要文化財に指定されています。 詳細は直接施設にお問合せください。 ☆台東区立下町風俗資料館 (〇三・三八二三・七四五二) 江戸の風情をどめる大正時代の東京・下町の街並みを再現するとともに、台東区を中心とした下町地域にゆかりの資料、生活道具や玩具など、さまざまな資料を展示しています。 詳細は直接施設にお問合せください。 ☆台東区立一葉記念館 (〇三・三八七三・〇〇〇四) 処女作「闇桜」原稿や、「たけくらべ」草稿等重要な資料を展示しています。 詳細は直接施設にお問合せください。 ☆台東区立朝倉彫塑館 (〇三・三八二一・四五四九) 日本近代彫塑界の最高峰であり、文化勲章受章者である朝倉文夫が住宅兼アトリエ
--	---

☆国立西洋美術館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ☆東京藝術大学 大学美術館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ①「第66回 東京藝術大学卒業・修了作品展」 一月二十八日(日)～二月三日(土) ☆国立国会図書館 国際子ども図書館 (〇三・三八二七・二〇五三) ☆黒田記念館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ①【黒田記念室】原則毎週火・日曜日 ☆東京都美術館 (〇三・三八八二・六九二二) ①特別展「ブリュッゲル展―画家一族150年の系譜―」 一月二十三日(火)～四月一日(日) ☆上野の森美術館 (〇三・三八三三・四一九二) ①企画展「生頼範義展」 一月六日(土)～二月四日(日) ☆都立旧岩崎邸庭園 (〇三・三八二二・八三四〇) 岩崎彌太郎の長男で三菱第3代社長の久彌の本邸として造られ、園内の歴史的建造物は国の重要文化財に指定されています。 詳細は直接施設にお問合せください。 ☆台東区立下町風俗資料館 (〇三・三八二三・七四五二) 江戸の風情をどめる大正時代の東京・下町の街並みを再現するとともに、台東区を中心とした下町地域にゆかりの資料、生活道具や玩具など、さまざまな資料を展示しています。 詳細は直接施設にお問合せください。 ☆台東区立一葉記念館 (〇三・三八七三・〇〇〇四) 処女作「闇桜」原稿や、「たけくらべ」草稿等重要な資料を展示しています。 詳細は直接施設にお問合せください。 ☆台東区立朝倉彫塑館 (〇三・三八二一・四五四九) 日本近代彫塑界の最高峰であり、文化勲章受章者である朝倉文夫が住宅兼アトリエ	☆国立西洋美術館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ☆東京藝術大学 大学美術館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ①「第66回 東京藝術大学卒業・修了作品展」 一月二十八日(日)～二月三日(土) ☆国立国会図書館 国際子ども図書館 (〇三・三八二七・二〇五三) ☆黒田記念館 (〇三・五七七七・八六〇〇ハローダイヤル) ①【黒田記念室】原則毎週火・日曜日 ☆東京都美術館 (〇三・三八八二・六九二二) ①特別展「ブリュッゲル展―画家一族150年の系譜―」 一月二十三日(火)～四月一日(日) ☆上野の森美術館 (〇三・三八三三・四一九二) ①企画展「生頼範義展」 一月六日(土)～二月四日(日) ☆都立旧岩崎邸庭園 (〇三・三八二二・八三四〇) 岩崎彌太郎の長男で三菱第3代社長の久彌の本邸として造られ、園内の歴史的建造物は国の重要文化財に指定されています。 詳細は直接施設にお問合せください。 ☆台東区立下町風俗資料館 (〇三・三八二三・七四五二) 江戸の風情をどめる大正時代の東京・下町の街並みを再現するとともに、台東区を中心とした下町地域にゆかりの資料、生活道具や玩具など、さまざまな資料を展示しています。 詳細は直接施設にお問合せください。 ☆台東区立一葉記念館 (〇三・三八七三・〇〇〇四) 処女作「闇桜」原稿や、「たけくらべ」草稿等重要な資料を展示しています。 詳細は直接施設にお問合せください。 ☆台東区立朝倉彫塑館 (〇三・三八二一・四五四九) 日本近代彫塑界の最高峰であり、文化勲章受章者である朝倉文夫が住宅兼アトリエ	終わりを見届けた城である。京における徳川將軍家の館であったのにもかかわらず、初代・家康を除けば歴代の將軍で、ここに滞在したのは三代家光と十四代家茂だけである。十五代慶喜は、慶応三年(一八六七)、この二条城で大政奉還を宣言。近代日本はこの瞬間から始まった。二条城は一九九四年にユネスコ世界遺産に登録された。	編集後記 皆さま御機嫌よく新年を迎えられ、寿がれたことと拝察いたします。 平成の御世も明年四月をもって終わることとなりました。振り返りますと、本年設立三〇周年となる当財団は平成の声と共に生まれ、歩んできたこととなります。誠に感慨深いものを覚えます。 諸行無常、時は移り変われども、私たちは創設時の精神を守り、文化・芸術を通して社会貢献をいたしてまいります。財団を取りまく環境、とりわけ財政面は年々大変厳しいのがあります。そうした中、スタッフ一同努力して本年も頑張っていく覚悟です。皆さま、事情御賢察のうえ、一層の御理解、御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。 広報誌「絲綢之路」(シルクロード) 二〇一八年 新春号 通巻第八十六号 ★平成三十年一月二十五日発行 ★編集発行／公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団 事務局◎ 〒110東京都台東区上野公園十二一五〇 電話 (〇三) 五六八五―二三一一 FAX (〇三) 五六八五―五二二五 URL: http://www.bunkazai.or.jp/ E-mail: jimukyoku@bunkazai.or.jp ★印刷 株式会社 東都工芸印刷
--	--	---	---